

【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

(3) 毎日の危機

毎日の生活に何かを感じながら普通に生きていくなかで、その意味、その内容を時々考えてみてはどうでしょうか。また、生きる楽しさ感じるのかどうかを考えてみてはどうでしょうか。

その中において考える内容の意味をどう理解し、どう判断し、その存在はどうかを検証してはどうでしょうか。また、時間との向き合い方をどうするのかを考えて見る中で、大切なものをいかに見つけ、それをどう役立たせるかを検証することが必要です。

そのことで毎日を一人の人間として普通に無理をせず、いかに生きるかに繋がってくるものと思いますし、人生の形成にも繋がっていくものだと思います。

普通に毎日を生活しているようで、その中身を検証すると、事故や災害、人間関係、金銭関係などが身近に感じられることだと思いますし、健康面においてもそのことが感じられることだと思います。

現状認識を明確にし、その内容を読み取り、毎日の生活に当てはめてみることで、毎日の生活に潜んでいる危険をいかに避け、いかに少なくするかを真剣に考えることが必要です。

普通に生きることの大切さの中から、危険に対する内容を明確することを考え、分析し、整理することが習慣になる方法を見つけることが必要です。そのことに対する意識を持ち、継続して過ごすことが大切です。

生きる中において問題点・課題を見つけ出し、具体化し、生きる楽しさを目標に掲げ、普段の生活に生かしていくことができれば、その日常生活に生きがい自然に生まれてくるものと思います。現在及び将来の生活を考えると、避けて通れないことの事実と理解し、どうしたら整理し、実行できるのかを考えて見ることに意義があります。

毎日を危機とどう向きあって生きていくのかを、どう感じようと、感じないことも、危機に対する対処をどうするのかの目的を持って生きていることは事実です。そのことに対する感じ方に強弱がありますし、取り組む姿勢もいろいろありますが、自分で責任を持って生きていくことには変わりありません。

現実には、目的を持って、生きている時間・明日の時間をどうしていくかに繋がっていくものです。社会において概ね保障されているのかは疑問がありますし、生きていく中で、どこかで保障されているのか、自分の周り、社会に理解されているのかに不安がありますし、どうなっているのかも判らないのが事実です。